

NEWS

The Kagawa Museum

vol. 54

香川県立ミュージアム
ニュース
2021 秋号

Contents

特集

特別展「近代香川を生み出したまち 多度津ものがたり」

収蔵品紹介

あかしぼっけい かんしつかざりつぼ くんぷうえんぜん
明石朴景 乾漆飾壺「薫風婉然」

調査研究ノート vol.41

作品の魅力を探る

— 日本画家 岩倉壽ひさしの作品から

ミュージアムガイドランス vol.43

コロナ禍の中の団体見学

展示室だより

野の香に愛でる 日本絵画の妙

れきみんだより

コロナ禍での令和2年の秋祭り実態調査から



多度津町本通商店街

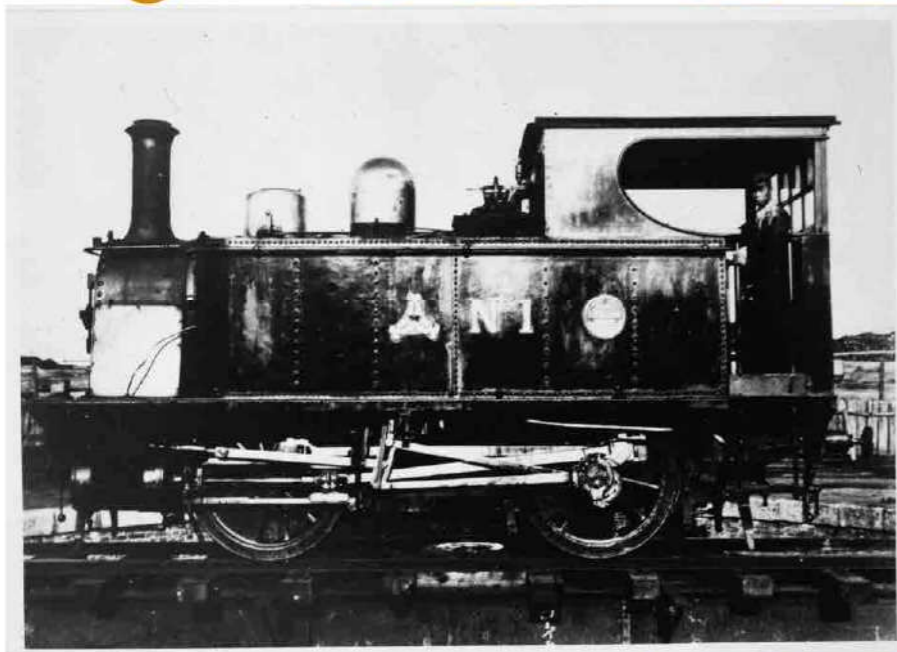
昭和 26 (1951) 年頃撮影 当館蔵

多度津港から内陸へと続く通りに展開した多度津町の中心的な商店街。江戸時代から、金刀比羅宮へ向かう参詣者でにぎわっていたとみられ、近代に入ってから銀行や商店が並ぶようになりました。写真は戦後間もない頃の商店街の様子を撮影したもので、屋根はかかっていますがアーケードになっていたことが分かります。

この通りには、江戸時代末期の建物や明治時代に活躍した資産家合田家の邸宅など歴史的に貴重な建物がのこっています。

この展示は、香川県が「近代化」していく上で、先進的な役割を果たした「多度津」に注目し紹介するものです。「港」と「近代化」を切り口に多度津のまちの魅力にせまります。

特別展「近代香川を生み出したまち 多度津ものがたり」



讃岐鉄道1号機関車 鉄道博物館提供

多度津からはじまる

香川県の瀬戸内海沿岸の中部、やや西寄りにある多度津町。その中で港を中心とした地域は、江戸時代に港町として発展し経済力を蓄え、明治時代に入ると鉄道の敷設、電力会社や銀行の設置など近代化に向けた活発な動きがみられた地です。そして多度津で生まれた事業は、現在も香川県を支える企業につながっています。

近代がやってきた

明治22(1889)年5月、香川県で最初の鉄道が丸亀～多度津～琴平の区間で開通します。運営は讃岐鉄道株式会社でした。四国内でみると、明治21年に開通した松山～三津間の伊予鉄道会社に次ぐ、先進的な事業でした。

讃岐鉄道は、丸亀や多度津から上陸して金刀比羅宮に参詣する旅客を運ぶ交通手段としてにぎわいます。明治30年2月には丸亀～高松の区間が開通し、交通・流通における重要性を増していきました。

讃岐鉄道は、明治37年に山陽鉄道へ買収され、同社は同39年に国有化されます。鉄道路線は四国内をつなぐべく拡張されていきますが、その中で多度津は、愛媛・高知方面に向かう分岐点となります。江戸時代に大きく発展してきた多度

津港の航路にあわせ鉄道が通じること、四国と本州を結ぶ重要な交通拠点となったのです。国が運営してきた鉄道は、民営化されJR四国(四国旅客鉄道株式会社)として現在も利用されています。

香川県下で最初に電気が供給されたのは、明治28年のことで、高松電灯株式会社によってでした。その後、明治36年になって讃岐電気株式会社により金蔵寺村(現・善通寺市)に火力発電所が建設され、多度津・丸亀に電気が供給されます。しかし讃岐電気株式会社の運営はうまくゆかず、多度津の資本家たちが関わることとなります。火力発電から水力発電に重点を置く方針に転換し、明治43年、四国水力電気株式会社



四国水力電気株式会社本社 大正3年頃 多度津町蔵

と改称、大正3(1914)年には本社が多度津に移転します。大正8年、堀江に火力発電所が建設され、電力の供給を拡大し、昭和5(1930)年にはライバル会社である高松電灯株式会社を吸収し、県下のかなりの電気をまかなうようになります。その後、電力は国の管理下に置かれ、四国水力電気株式会社は四国内の電力会社と統合されて四国配電株式会社となります。第二次世界大戦後、電力再編により四国電力株式会社が誕生します。

身近な存在である銀行は、明治時代になって整備されたもので、当初は国立銀行と私立銀行がありました。明治11年に成立した第百十四国立銀行は、香川県で最初の銀行で、現在は百十四銀行となっています。一方、多度津銀行は産業・商業資金や資産家資本の運用を目的として設立された私立銀行のひとつで、多度津の資産家たちの出資によって設立され、明治17年の丸亀銀行、同23年の私立東讃銀行に次いで同24年誕生しました。変動する経済状況の中でも安定した経営を続けていましたが、戦時下における金融合理化により昭和16年に高松百十四銀行(第百十四国立銀行から転換)に営業譲渡します。多度津銀行本店が高松百十四銀行多度津支店となり、敷地は拡張していますが、現在も同じ場所で百十四銀行多度津支店が営業を続けています。

このように、明治期において香川が新しいものを取り入れていく上で、多度津が大きな役割を果たしたのです。その中で多くの人とモノが多度津を行き交い、にぎわうまちが形成されました。時代の変化により、多度津はその位置づけを変えることとなりますが、明治・大正・昭和のあゆみを残す町並みが今に伝わっています。

近代にたどりつくまでの多度津

多度津が近代香川の起点となったのには、前提がありました。多度津は古い時代から豊かな生活や高い文化が展開



多度津銀行 明治時代 多度津町蔵

していた地だったのです。

多度津町内には弥生時代の遺跡や古墳が確認されています。中でも注目されるのが奥白方にある盛土山古墳で、国内最大級の勾玉や国内でも例の少ないトンボ玉などが出土しています。瀬戸内海に面し、弘田川を抱える地形が外部との往来を促し、大陸の高い文化が入ってきていたことを物語るとみることができます。

高知県香美市の談議所地区に伝わる旧吉祥寺(廃仏毀釈により廃寺)の涅槃図には、「多度津」の地名と「嘉元三季」(1305、鎌倉時代)の年紀が記されています。涅槃図自体も同じ時代に描かれた作品であると考えられ、当時の「多度津」は質の高い文化がもたらされる場であったことが示されています。

こうしたことから、多度津とその周辺は古い時代から外部との往来がさかんな地であったことが分かり、その基盤になったのが瀬戸内海との接点・港であったと考えられます。

多度津港が大きく発展するのが江戸時代です。この時代にさかんになった金毘羅参詣は、当初丸亀を上陸地とした路程がにぎわいますが、参詣者が増えるに従い、讃岐より西から訪れる人々は多度津を利用するようになります。人の往来の増加とともに、まちが大きくなっていったと考えられます。こうした状況をさ

らに発展させたのが、文政10(1827)年の多度津藩の陣屋設置と天保9(1838)年の多度津港の築造です。

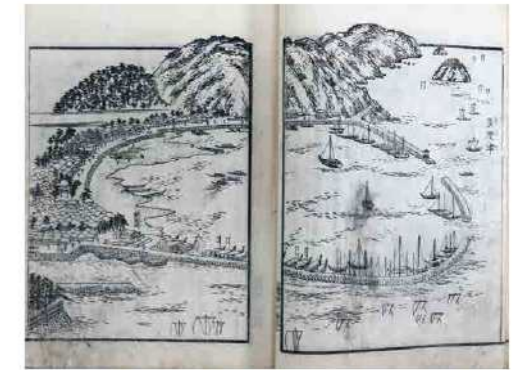
多度津藩とは、元禄7(1694)年に丸亀藩を治めていた京極家が分家して立てた藩ですが、歴代藩主は丸亀城の中に拠点を置いていました。四代高賢の時に、藩主の在国時の居場所であり政庁でもある陣屋が多度津に設けられたのです。多度津は藩政の中心となったことで新たな人やモノの動きを獲得することになります。

多度津の港は桜川の河口を利用したものでしたが、船の往来が多くなるにつれて拡張が必要となってきたとみられます。そのために海を囲う堤防を築いて港としたのが多度津港です。港の完成により、大型の船も入ることができ、波をさける機能をもった良港が誕生します。

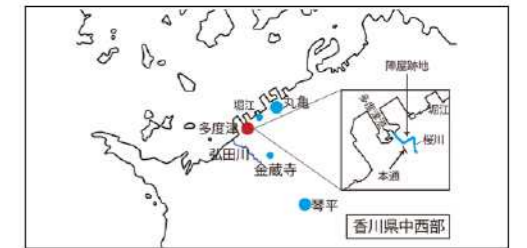
古い時代から多度津が港を中心に栄え、江戸時代に大きな転換を迎えることで、たくさんの人とモノが往来する場となりました。この発展が前提にあって、近代になってからの先進的な動きが生み出されていくのです。

地域とつながる

当館では、中期活動計画の中で「地域の人びとと地域活性化に取り組み、ともに成長するミュージアム」を使命として掲げ、地域に住む人たちとともに、歴史・



金毘羅参詣名勝図会 多度津港の図 当館蔵



地図

民俗資料の所在把握や旧宅に遺る道具や記録資料の整理を行うなど、その地にある文化遺産を守り、活用していく活動に取り組んでいます。そのモデル地区として選んだのが多度津町です。

多度津町の歴史や特徴を活かそうと活動しているまちづくり団体等と協力・連携することで、観覧と現地をつなぎ、多度津町を訪れて完結する展示会を目指しています。

(主任専門学芸員 御厨 義道)

特別展

「近代香川を生み出したまち 多度津ものがたり」

会期 9月18日(土)～11月23日(火・祝)
開館時間 9:00～17:00

(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日、9月21日(火)

※9月20日(月・祝)は開館

会場 特別展示室

観覧料 800円、前売・団体 650円

高校生以下、65歳以上、

障害者手帳をお持ちの方は無料

※関連行事は8頁インフォメーションをご覧ください

収蔵品紹介

明石朴景 乾漆飾壺「薫風婉然」

昭和62(1987)年 漆 当館蔵

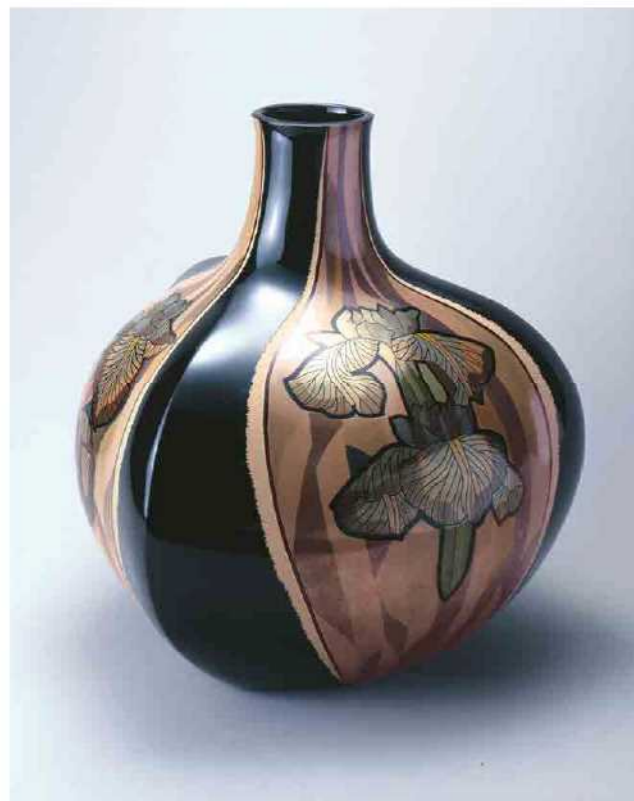


図1 高橋章撮影

《乾漆飾壺「薫風婉然」》と題された作品(図1)。そのフォルムはニンニクのような。乾漆は、丈夫で自由なフォルムをつくるのが強みの漆芸技法です。その手法は、石膏の型に漆を塗って麻布を貼り、その麻布を漆でさらに塗り固めます。石膏の型から麻布と漆からできた本体を外し、再び漆を塗り重ねて仕上げます。こうして生まれた本作では、艶やかな黒漆地に菖蒲が描かれています。天を仰ぐように花卉が描かれ、植物の力強い生命力が表現されています。

作者は明石朴景(1911～1992)。香川を代表する漆芸家のひとりです。高松市に生まれ、香川県立工芸学校に進学し、磯井如真(昭和31年重要無形文化財(蒔繪)保持者)に漆芸技法を学びました。昭和9年には東京美術学校(現・東京藝術大学)の図案科を卒業し、和歌山県工業試験場に勤務して漆器のデザインを指導しました。30歳になる昭和16年には母校の教員として香川に戻り、翌年高松市立工業研究所に転任しました。工業研究所に勤めながら、昭和18年には第9回香川県美術展覧会に出品するなど、制作を続けました。その後、招集され衛生兵となり中国で終戦を迎えました。復員した当時を振り返り、

後年、明石は次のような言葉を残しています。

(前略)高松へ帰ったが一、思うてみたら、でえーと高松が焼け野原でね。あーこれはえらいことになつとるが。おれは、する仕事はこれからや、と思うてね。高松の美術文化いうもんをこれから育てないかんと、これからやらないかんとする覚悟を決めました。*

この言葉からは、命からがら帰郷できた安堵感を味わうものの、焦土と化した故郷の姿に衝撃を受け、新しい創造の土壌を育もうとする決意がうかがえます。この体験が、新しい工芸を目指して切磋琢磨する「うるみ会」を生み、後進を導くエネルギーに繋がっていきました。

ふるさとの文化芸術の振興に尽力した明石。多忙な活動のなかで、改組第19回日展会員賞を受賞したものが、本作です。《春麗日 乾漆花瓶》(図2)でも確認できるように植物を題材にして、本作では菖蒲の姿を瑞々しく表しています。そしてまた、色漆で巧みに描き、新緑のなか菖蒲のあいだに吹く初夏の心地良い風を表現しています。明石の繊細な感受性とそれまで培った表現力が発揮された、代表作といえるでしょう。

今秋、常設展示室4・5では明石朴景生誕110年を記念し、館蔵品から明石の最晩年までの作品を展示・紹介します。ここで紹介した本作もそのひとつです。明石の漆の世界をご堪能ください。



図2 明石朴景《春麗日 乾漆花瓶》
昭和55年 当館蔵 高橋章撮影

※「明石朴景、自らを語る。」「明るい新しい漆芸をめぐって 明石朴景展」高松市美術館、1992年。

(学芸員 日置 瑤子)

関連展覧会

常設展示室4・5

「生誕110年 明石朴景

— 物語を紡ぐ、漆の世界 —

9月14日(火)～10月24日(日)

トーク：9月25日(土)、10月9日(土)

学芸講座：9月18日(土) 13:30～15:00 要事前申込

※申込方法は8頁インフォメーションをご覧ください

Notes for
Research

調査研究ノートvol.41

作品の魅力を探る

— 日本画家 岩倉壽の作品から



岩倉壽《旅の窓から》平成9(1997)年 紙本彩色 当館蔵 (令和2(2020)年度新収蔵作品)

作品が放つ魅力

コロナ禍にあつて、多くの展覧会が休止や中止となり、美術館や博物館、展覧会の主催者は、オンラインで展覧会や作品を紹介しようと新たな工夫を重ねています。こうした工夫から、展覧会場でひと通り眺めただけでは見落とし、気づかなかったものを知ることなどができ、興味深い新しい鑑賞方法が生まれたことを実感しました。とはいえ、オンライン鑑賞はたくさんの方のこころを補いながらも、全てを賄うことができない場合もあることに気づきます。

展覧会が再開され、久しぶりに現物の作品に向き合うと、作品からあふれるエネルギーや作品を形づくる作者の目や手を追体験でき、実物や作者の思いと触れ合えることに至福を感じます。そんな現物ゆえの存在感を示してくれる作品として思い起こすのが、岩倉壽の作品です。

岩倉壽(1936～2018)は香川県三豊市出身の日本画家で、京都を拠点に制作活動を続けてきました。画の主題を風景に求めながらも、景観を写しとる輪郭は甘く、湿潤な大気に溶けてしまいそうな、淡くはかない画風が特徴的です。岩倉の作品に向き合った瞬間、きっと人は不思議にも静寂な自然の中に取り残されたよう

な体験をするでしょう。作品にあふれる存在感はどこから現れるのでしょうか。

画業からその魅力を探る

岩倉の人柄はたいへん控えめで、絵筆の他では多くを語らず、文筆やインタビューに遺された言葉はあまりありません。師・山口華楊(かよう)の主宰する農鳥社に参加し、農鳥社展や日本美術展覧会(日展)に出品し続けました。一方、京都画壇に身を置きながらもその伝統に安住することなく、様々な画壇との交流の場にも出品しました。高山辰雄(1912～2007)が中心となり催した研究会「遊星会」の発表展(遊星展)への参加は、それを象徴するものでした。高山辰雄は東京美術学校(現・東京藝術大学)に学び、岩倉とは異なる道のりを歩んできた画家です。岩倉は縦横に学びながら、自己の画業を確かめつつ、他に比べ難い独自の表現を確立してきました。

作品からその魅力を探る

これまで、当館では岩倉の展覧会出品作品や記念碑的な作品を含め25点収蔵しており、さらに令和2年度には17点の作品を収蔵しました。目下、これら

の作品から制作年代、画風の変遷、画材や技法などを通して、作品を探究しようとする試みの最中です。本人の文筆などの二次的な資料は少なく、眼前の絵画からさまざまな情報を引き出し、多角的に考察して、岩倉芸術の源を垣間見ることができればと思案しています。作品はあるがままにあることが最適という考えもあるかと思いますが、作者がまじめに取り組んだ制作を探究し、そこに見出された真意は、私たち一般の心に通じるものかもしれない、大きさに言えば、生きる希望や期待に通じるものではないだろうかと思案、調査しています。

※遊星会は、「日展の高山辰雄、創画会の山本丘人、院展の吉田善彦が中心となり、各所属団体や年齢、立場にとらわれず、自由に楽しい交わりをもちたいという趣旨のもとに結成したグループ」で、当初より10年計画であった1974年から1983年まで開催され、岩倉は後半の1979年から1983年まで参加しています。(参考：「高山辰雄展」資生堂アートハウス、2007年、p.78)

(主任専門学芸員 窪美 西嘉子)

岩倉壽

(いわくらひさし | 1936～2018)

香川県三豊郡神田村(現・三豊市山本町)生まれ。京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)日本画科卒業、同大学専攻科修了。在学中に日展初入選。1959年大学卒業後、日本画研究団体・農鳥社に入り、山口華楊に師事。1970年より晩年まで京都市立芸術大学で後進の育成にあたる。1972、76年日展特選。1988年日展会員賞。1990年日展内閣総理大臣賞。2003年日本藝術院賞。2006年日本藝術院会員。

関連展覧会

常設展示室2

「岩倉壽

— 心に映す風景 —

9月14日(火)～12月12日(日)

※10月26日(火)～全点展示替

トーク：9月20日(月・祝)

10月30日(土)

香川県立東山魁夷せとうち美術館 秋の特別展

「岩倉壽 — 自然を掬う —

9月18日(土)～11月7日(日)

トーク：9月18日、10月9日・23日、11月6日
(全て土曜日)

コロナ禍の中の団体見学 ～ 小学校の団体見学を例に ～

当館は団体見学の中でも小学校の校外学習での来館が多く、令和元(2019)年度は29校(約2,000人)にご来館いただきました。

令和2年度の春、新型コロナウイルス感染症が拡大すると校外学習が減り、当館も臨時休館となりました。

再開にあたり特に気をつけたことは、社会的距離の維持です。少人数を保つため、職員1人あたり10人程度のグループに分かれて展示案内をするほか、全体で50人を超える場合はワークシートを準備してグループごとに館内をめぐり、展示室で職員が質問を受ける方法をとりました。

静かな1学期が過ぎ、夏休みに入ると見学の問い合わせが増えてきました。「コロナ禍の中でも、体験活動をともなった学習を児童たちに提供したい。」小学校の先生方のこんな言葉を聞いて、当館での学習が必要とされていることを改めて実感することができました。

2学期になると見学が徐々に増え、最終的に令和2年度の小学校の来館数は21校(1,071人)で、小規模校が増えました。さらに、主体的に課題を探究する児童の姿に、先生方が驚くこともありました。

今年度もコロナ禍が続いています。現在は各小学校専用のワークシートを作成

し、郷土の歴史や文化に関心を持ってもらうよう、引き続き取り組んでいます。

(主任専門職員 森 顯博)



団体見学の様子

展示室だより

野の香に愛でる 日本絵画の妙



紀太理兵衛「黄蜀葵図」江戸時代 高松松平家歴史資料

長きにわたる日本の絵画史上において、絵師たちは四季折々にうつろう穏やかな気候と風土に恵まれた自然の景観を心のうちに感受し、「日本の美」として愛でてきました。平安時代以前、仏教公伝と同時に入ってきた唐絵と称される中国絵画によって、日本における絵画の礎が築かれました。

墨筆による描線(びょうせん)を特徴とする中国絵画は、自然が湛える大気と水、植物など自然が育むあらゆる生命の象徴として表現されています。私たちの身の回りには常に現実的な空間があるわけですが、絵画を通して自然の情景と現実を比較対照することで、根源的な理想の境地を思い描くようになります。「山水画」と呼ばれる絵画様式は、人々の心を捉える理想郷として長く描かれるようになりました。

平安時代、遣唐使が派遣されなくなると中国との国交が希薄になると、日本絵画は自立の道を歩み始め、オリジナル絵画「大和絵」が誕生します。大和絵には、季節を彩る植物が放つ芳醇な香りまでも描き留めようとするなど、観祭に基づいた写生による迫真的で繊細な表現が現れます。描く対象から得る情報を整理し、必要最小限の素材と技で表現するといったプロセスには西洋美術の写実とは異なる、日本絵画の妙技を垣間見ることが出来ます。現在では、日本画を再考しようとする若い作家が現れ、改めてその本質を見極め、現代における新たな日本絵画としての意義を見直そうとする動きに発展しています。本展では、日本絵画の壮大な歴史の一端をご覧いただけます。

(美術コーディネーター 田口 慶太)

展覧会情報

常設展示室1

野の香に愛でる 日本絵画の妙

10月22日(金)～12月24日(金)

トーク: 11月14日(日)、12月4日(土)

コロナ禍での令和2年の秋祭り実態調査から — 令和3年の秋祭りに向けて —

令和2年の秋祭り実態調査

令和2(2020)年の香川県の秋祭りは、そのほとんどが神事の実施となりました。関係者におかれては、目に見えないウイルスや地域住民の不安感などを受けて、実施するにせよ休止するにせよ難しい判断を迫られたことは想像に難しく、その対応や判断に敬意を表するものです。本レポートは昨年の実態を概観し、今年の秋祭り実施の参考としていただければ幸いですと報告するものです。

① 神事のみ実施した例

実際の数字は不明ながら、県内各所の神社・獅子舞関係者などの情報、神社の掲示物などから推察すると、県内のほとんどの神社が神事の実施を選択したとみられます。その中には、祭り当番の組により幟や幕などの祭りの設えをして神事をしたところもありましたが、人が集まること自体を自粛し、飾りつけも一切行わなかった神社も見られました。

② 神事及び神楽のみ実施した例

銚八幡神社(三豊市財田町)や北宮八幡神社(綾川町)などで行われました。前者では宵祭りに拝殿で巫女舞と神楽が、本祭りにお祭所などで巫女舞が神事に際して舞われました。神楽人をはじめ関係者全員、マスク着用での実施でした。後者では宵祭りに屋外で神楽が舞われました。また、宇夫階神社(宇多津町)でも宵祭りに、各演目の時間を短く設定するなどして神楽が舞われました。

③ 神事及び神楽、獅子舞(トウヤ獅子)を実施した例

大宮八幡神社(綾川町)では宵祭りに神楽が舞われ、本祭りには複数ある獅子組のうち、その年のトウヤ獅子があたった獅子組のみ奉納しました。神幸行列は行いませんでしたが、獅子舞の囃子に誘われ、多くの氏子の参拝する姿が見られました。

④ 神事及び有志による獅子舞奉納を実施した例

畑八幡神社(綾川町)では神幸行列は中止し、神事の実施としましたが、獅子舞の奉納は獅子組の判断に任せました。宵祭りには4組、本祭りには3組の獅子組が奉納し、獅子組の中には油車の中の遣い手2人がマスクをするなどして工夫して奉納した姿も見

れました(写真1)。また、総社神社(坂出市林田町)でも、有志の組が本祭りに拝殿前で獅子舞を奉納しました。家遣いと呼ばれるムラ内の家まわりはしませんでした。新築の家への獅子舞奉納は家主の要望をふまえ行われました。



写真1 畑八幡神社の獅子舞奉納

⑤ 神事及び神輿渡御を実施した例

実見できていませんが、岩田神社(高松市飯田町)や石清水神社(さぬき市津田町)では、神輿のお祭所への渡御と神事が行われました。

⑥ 神事・神輿渡御・獅子舞奉納を実施した例

国分八幡宮(高松市国分寺町)では感染防止対策を徹底して、できるだけ例年通りの祭礼を行うよう工夫しました。参拝者は隨身門で検温し、確認した人には腕にリングを付けていただきマスクの着用を徹底してもらいました(写真2)。また、感染症対策として手水鉢の杓や拝殿の鈴緒を撤去しました。お祭所を隨身門内の境内に設定し、拝殿から隨身門の間の空間で神輿渡御や獅子舞奉納を完結させ参加者の安心・安全を図りました。獅子舞の奉納はすべての組が参加することはできませんでしたが、うち2組が奉納しました。



写真2 国分八幡宮の隨身門での検温

⑦ 太鼓台奉納を実施した例

坂出市庄地区などで行われました。庄地区は白峰宮(坂出市)に小太鼓を奉納していますが中止になったため、地区の伝統を絶やさないよう、地元の同意を得て地域内の国津神社に奉納しました(集落外からの参加は遠慮してもらいました)。また、同市浜西地区は総社神社に中太鼓を奉納していますが、同社への奉納が中止になったため、このままでは子どもたちの行事がすべて中止になることを憂えて太鼓台を組み立て、子どもたちを乗せたりしました。

⑧ ほぼ例年どおり実施した例

加茂神社(多度津町)や勝浦神社(まんのう町)ではほぼ例年どおり行われました。加茂神社では隨身門で参拝者に検温と連絡先を記入いただき感染防止対策をしたうえで催行しました。獅子舞の奉納では一般参拝者の立ち入りを制限したり、獅子舞の子ども役を青年が行うなどの工夫をしたりしながら、ほぼ例年通りの祭礼を行いました。

また、勝浦神社では神事・獅子舞奉納・神輿渡御・お祭所への神幸行列も例年通り行いました。県外からの帰省は取り止めてもらい、気心の知れたムラ人たちなど、山間小社会の信頼関係の上で行われた祭礼でした。

令和3年の秋祭りに向けて

ワクチン接種が進むなか、令和3年は例年通りの秋祭りに戻れるのでしょうか。私たちはどのように対応したらよいのでしょうか。

令和3年1月24日に行われた礮石のもて祭り(坂出市礮石島・県無形民俗文化財)は、その方向性の一つを示してくれています。祭りのようすを伝えた四国新聞の記事によれば、通常の11人の射手を5人に減らし、行事食の提供を取り止めるなどして工夫して実施したといえます。

私たちは地域社会の紐帯ともなっている祭りや民俗芸能の催行について「ウィズコロナ社会」に適応した在り方を模索していく必要があります。0(中止)か100(今まで通りの実施)かではなく、できること、可能なことを考え工夫し、地域の実情にあった選択がされることを願ってやみません。

(瀬戸内海歴史民俗資料館長 田井 静明)

特別展「近代香川を生み出したまち 多度津ものがたり」関連行事

1 当館で開催するイベント

◎多度津高等学校写真部によるプレゼンテーション

ふるさとの民家や町並みを撮影した写真を発表し競う「民家の甲子園」(全国高等学校対抗民家町並みフォトコンテスト)。強豪・多度津高校写真部が、ふるさとへの熱い思いを披露します。



民家の甲子園全国大会(令和元年8月)

日時: 9月19日(日) 13:30 ~ 14:30
会場: 地下1階 講堂
定員: 100名(要事前申し込み、先着順)
申込期間: 8月18日(水) ~、定員になり次第終了

◎学芸講座「多度津ものがたり 多度津陣屋の成立」

江戸時代の多度津藩の陣屋をめぐる動きについてお話しします。

日時: 10月23日(土) 13:30 ~ 15:00
会場: 地下1階 講堂
講師: 川邊優佑(当館学芸員)
定員: 100名(要事前申し込み、先着順)
申込期間: 9月23日(木・祝) ~、定員になり次第終了

プレゼンテーション・学芸講座の申込方法

電話、はがき、FAX、「かがわ電子自治体システム」(*)を利用したインターネットから。はがき、FAXの場合は氏名、電話番号、行事の名称を明記してください。
申込先: 〒760-0030 高松市玉藻町5番5号 香川県立ミュージアム学芸課
TEL.087-822-0247 FAX.087-822-0049

※「かがわ電子自治体システム」を利用する場合

香川県立ミュージアムホームページ右下の「関連リンク」から「[[香川県]電子申請のページ」をクリックしてください。

2 多度津町で開催するイベント

◎多度津町立資料館 企画展「ヒストリート 多度津」

(「ヒストリート」はヒストリー(歴史)とストリート(町並み)を組み合わせた造語)

会期: 9月18日(土) ~ 11月14日(日)

◎多度津ヒストリートめぐり ※参加料50円

本通周辺の町並みをめぐりながら解説します

日程: 9月25日(土)、10月31日(日) 要事前申込(申込は当館)

◎ミュージアム学芸員の多度津出張講座

日程: 9月26日(日) 要事前申込(申込は多度津町教育委員会)

◎奥白方の家老屋敷「林求馬邸」公開 ※入場料200円

日程: 9月26日(日)、10月3日(日)・17日(日)、11月7日(日)

◎奥白方の盛土山古墳見学会 ※参加料50円

日程: 10月3日(日)、11月7日(日) 要事前申込(申込は当館)

◎多度津高等学校ミニ水族館公開

日程: 10月10日(日)・31日(日)

◎家中の武家屋敷「富井家住宅」公開

日程: 10月16日(土)・17日(日)

◎多度津のまちあるき ※有料

日程: 10月16日(土)、10月24日(日)、11月3日(水・祝) 要事前申込
申込・問合せは多度津町観光協会。各回で内容が異なります。

特に表記のないイベントは無料です。各行事の申込方法、公開の時間など、くわしくは当館ホームページをご覧ください。関連行事は新型コロナウイルス感染症の感染状況によって開催方法の変更や延期・中止等の場合があります。

瀬戸内海歴史民俗資料館

テーマ展

「まちかど生き物標本展~ため池の生き物~」 (巡回展/香川県みどり保全課との共催)

ため池の生物の標本や写真のほか、ため池で使われた漁具などの民俗資料を展示し、ため池の生物多様性の価値や歴史を紹介します。

会期: 10月9日(土) ~ 11月12日(金)
会場: 瀬戸内海歴史民俗資料館 第9・10展示室

瀬戸内ギャラリー 第3回企画展

「国讀めと屍 — 藏本秀彦・水谷一 美術展 —」 (瀬戸内アートコレクティブとの共催)

沙弥島で詠まれた柿本人麻呂の和歌に思いを寄せ、鎮魂をテーマに民俗資料と現代アートがコラボレーションします。

会期: 9月18日(土) ~ 12月19日(日)
会場: 瀬戸内海歴史民俗資料館 瀬戸内ギャラリー

れきみんワークショップ

「瀬戸内探訪② — 坂出 —」

江戸時代に久米通賢による塩田や畑地の造成により、今日の坂出の市街地が形成されたといわれています。塩の生産と移出などによる港と町の発展の様子を記す場所を、徒歩で見学します。

日時: 9月19日(日) 午前の部 9:00 ~ 11:30
午後の部 13:30 ~ 16:00

集合場所: JR 坂出駅北口 講師: 当館職員
定員: 午前・午後各15名 参加料: 50円
申込期間: 8月19日(木) ~ 9月9日(木) 必着

れきみんワークショップの申込方法

往復はがき(1枚につき3名まで)、「かがわ電子自治体システム」(*)を利用したインターネットから。往復はがきの場合は、氏名(ふりがな)、住所、電話番号、ワークショップ名、高校生以下の方は学年を明記してください。申込者多数の場合は抽選となります。
申込先: 〒761-8001 高松市亀水町1412-2 瀬戸内海歴史民俗資料館
TEL.087-881-4707 FAX.087-881-4784

れきみん講座

「香川の主な漁業の歴史」

香川県の基幹漁業であるハマチとノリ養殖や、かつて盛んだったボラ漁などの歴史を紹介します。

日時: 10月30日(土) 午前の部 10:00 ~ 11:00
午後の部 13:30 ~ 14:30

場所: 瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室

講師: 川西敦(当館主任)
定員: 午前・午後各12名(先着順)

申込方法: 電話または直接来館
申込期間: 9月22日(水) ~、定員になり次第終了

瀬戸内海歴史民俗資料館

開館時間: 9:00 ~ 17:00

※入館は 16:30 まで

休館日: 月曜日

観覧料: 無料

駐車場: 30台(大型バス可)

TEL: 087-881-4707



カフェポット ミュゼ

くつろぎのひとときに、
カフェポット ミュゼを
ご利用ください。



営業時間: 9:00 ~ 17:00
(オーダーストップ 16:30)

ミュージアムショップ

1階ミュージアム
ショップでは、当館
オリジナルグッズも
販売しております。



営業時間: 9:00 ~ 17:00

